



豆打式 (2月3日)



# むなかた大節分祭

土日が重なり、  
両日で約五千人が参集

二月二三日、宗像観光協会(会長 小林正勝)との共催による「むなかた大節分祭」が行われ、「福」を授かるうとする参拝者約五千人が両日で参集し、寒さを感じさせない熱気で賑わった。

前日一日に降雨のなかではあったが、氏子青年会・宗像観光協会の奉仕をいただき、本殿横に特設舞台が設けられ、参拝者の受け入れ態勢が整えられた。

## 二月二日

二月二日午前十一時、豆打式は前日迄降雨が続き天候が心配されたが、幸いにも好天に恵まれ一時間前には今か今かと待ち構える参拝者が押し寄せた。定刻昇殿参拝後、神職と共に観光協会メール会員の中から選ばれた方々が特設舞台上がり、先ず子供達への豆打式



節分祭 祭典



平成ノ大造営

時満ちて  
道ひらく

## 余滴

最近、中国の大気汚染が問題になり、その影響が日本にも及ぶのではないかと心配されている。大陸に近い九州は不安である▼当神社には心字池という池があり、鯉が優雅に泳ぎ参拝者の皆様に心の安らぎを与えている。この池は各所の神社で見ることが出来るが、池を渡ることにより禊をする意味がある▼ところが数年前より黄砂が発生する春になると、この池の水が変色したり、鯉が死ぬなどの変調を起している。近年の気温上昇が原因かとも考えたが、一番暑い八月になると鯉は死ななくなり原因は不明である▼一般的な水質測定では問題は出ない。詳細な水質分析までは行っていないので安易なことはいえないが、池に異変が起きていることは間違いない▼当神社も広大な境内地を有し森に手を加えることもあるが人間の都合により扱った結果、その後余計な手が掛かった経験もあり、自然のバランスは良く出来ていると感じる。沖ノ島は人の手が加えられていないので千古不朽のように思われるが、厳しい自然環境の中で再生を繰り返しながら時代に適応して現在に至っている▼自然はともデリケートで異常が起きるとすぐに反応し、人間に警鐘してくれることもある。しかし身勝手に扱えばバチをあてる。(幹)

神具・装束・授与品  
**井筒**

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980  
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092  
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



福豆を授かる子供達

が行われ黄色い歓声が境内にこだました。引き続き一般参拝者の豆打式が入場制限を行いながら三度に亘り行われた。一旦豆打式が始まると寒さを感じさせない熱気でさらに賑わいを見せた。

手水屋の横では観光協会による、ぜんざいの振る舞いが行われ冷えた体を温めようと長蛇の列が出来、節分の賑わいを見せていた。

二月三日は昨日に引き続き好天に恵まれ、定刻の午前十一時、災難消除を願う節分祭が古式に則り本殿で斎行された。

責任役員、氏子会、海洋神事奉賛会、消防団など豆打式奉仕者、氏子会評議員の方々が参列する中、高向宮司が無病息災・延命招福の祝詞を奏上。続いて拝殿上左右二手に分かれた神職により追儼の神事「鳴弦の儀」が行われた。二人の神職が桃弓・葦矢を携えて、一人は天空に向け、もう一人は地上に向けて矢を三度射る所作を行い、次に弦を三度打ち天地の邪気を祓い清めた。その後宮司、氏子会・置鮎会長が各々玉串を捧げ今年一年の厄除開運を祈念した。

祭典終了後は神職と豆打式奉仕者が本殿西側横に設営された特設舞台に移動、天候にも恵まれ、また日曜日と言う事もあり大勢の詰め掛けた参拝者が待ち受ける中、渡邊禰宜の「鬼は外、福は内」の発生と共に福豆が撒かれると本殿周辺は瞬間に熱気に包まれ、各々福運を手にされた。

福豆を拾った参拝者は、齋館前のテントで当たり券を品物に交換し満足そうな様子であった。

節分はもともと季節を分ける事を意味し、各季節の始まりの日の前日を指す言葉であったが、いつの頃からか立春を重視し、他を言わず節分祭も立春の前日に行われ疫病を鎮める祭儀である。それとは別に大陸より追儼(ついな・おにやらい)という鬼霊を駆逐する行事が伝わり、わが国では、この

二月三日は昨日に引き続き好天に恵まれ、定刻の午前十一時、災難消除を願う節分祭が古式に則り本殿で斎行された。

責任役員、氏子会、海洋神事奉賛会、消防団など豆打式奉仕者、氏子会評議員の方々が参列する中、高向宮司が無病息災・延命招福の祝詞を奏上。続いて拝殿上左右二手に分かれた神職により追儼の神事「鳴弦の儀」が行われた。二人の神職が桃弓・葦矢を携えて、一人は天空に向け、もう一人は地上に向けて矢を三度射る所作を行い、次に弦を三度打ち天地の邪気を祓い清めた。その後宮司、氏子会・置鮎会長が各々玉串を捧げ今年一年の厄除開運を祈念した。

勢の詰め掛けた参拝者が待ち受ける中、渡邊禰宜の「鬼は外、福は内」の発生と共に福豆が撒かれると本殿周辺は瞬間に熱気に包まれ、各々福運を手にした。

福豆を拾った参拝者は、齋館前のテントで当たり券を品物に交換し満足そうな様子であった。

節分はもともと季節を分ける事を意味し、各季節の始まりの日の前日を指す言葉であったが、いつの頃からか立春を重視し、他を言わず節分祭も立春の前日に行われ疫病を鎮める祭儀である。それとは別に大陸より追儼(ついな・おにやらい)という鬼霊を駆逐する行事が伝わり、わが国では、この

二つが後世混淆して同一の行事となったものである。

また鳴弦の儀で用いられる桃弓は、元々桃の木で作られた弓、葦の矢は、難波(今の大阪)の葦で作られた。桃の弓は、古く「桃弧棘矢(とうこきよくし)を以て、其の凶災を除く」とされ、わが国の神話でも伊邪那岐神が桃の実を投げ悪鬼を祓われた故事がある。葦の矢は、極めて清く、かつ素朴なるが故に古来これを用いたと考えられる。

「豆打ち」は、室町時代以後に現れた行事で、『嬉遊笑覧』に「寶倉に年男におほせて、大豆やかにはやさせ、鬼は外福は内へと打ちらはらひ云々」とあり、豆を投げ打ち悪鬼を追い払う



当たり券の引き換え風景



協賛頂いた、スターフライヤーの客室乗務員さん



鳴弦の儀



小さい子供たちへの特別豆撒き



豆打式を待つ多くの参拝者

行事である。

今年の節分祭も

当大社と宗像観

光ポランティア

の会で袋詰めを

行った凡そ三万

袋の福豆が撒か

れた。福豆の中

は、北九州市の航

空会社「スターフライ

ヤー」より協賛頂いた東京

北九州間の往復航空券や、宗

像市内の旅館・商店に協賛頂

いた宗像の野菜、海産物など

の特産品や、「道の駅むなかた」

の会等に助成いただいたほか、

道の駅むなかた、スターフライ

ヤーにも特別協賛を賜った。

ご奉仕頂いた各団体各位には

心よりお礼申し上げます。



「外は〜福は〜内」

た」のお買い物券に加え、

大社からは迎福の縁起

物や、「節分厄除

けみくじ」の一回

無料券を協賛し福

豆に付けられた。

本年も宗像観

光協会を中心とし

て、宗像大社氏子青年

会、宗像観光ポランティア

の会等に助成いただいたほか、

道の駅むなかた、スターフライ

ヤーにも特別協賛を賜った。

ご奉仕頂いた各団体各位には

心よりお礼申し上げます。

# 建国祭斎行



二月十一日午前十一時本殿

にて我が国建国の事跡を祝う

建国祭が斎行された。当日は、

天候にも恵まれ祝日の故か多

くの参拝者が見守る中、奉仕

神職・巫女・参列者が参進・着

座し祭典が始められた。

神武天皇建国・御即位の昔

を顧みて国体護持を祈念する

祝詞を奏上、引き続き巫女に

よる浦安舞奉奏、各代表者に

よる玉串拝礼があり、祭典は

滞り無く終了した。

今年には皇紀二千六百七十三

年にあたる。皇紀とは云うま

でも無く神武天皇が今の奈良

県である大和の橿原宮で建国・

即位式を挙げられた年を元年

とする事に基づく我が国独自

の紀元である。

近年報道機関を始めとして

各界では、西洋暦の表記の上で

「平成」の元号表記をカッコで

記す風潮がみられ嘆かわしい

限りである。これを是とする

考えの主体は、グローバル化の

波をその理由としている事が

多い。しかしながら、西洋暦

とはキリスト教暦であり世界

をつぶさに見てまわれれば、イス

ラム文化圏はイスラムの暦を墨

守し、他にもその国独自の暦

を持つ国々が多い。国際化イ

コール西暦表記とは、その考え

が浅い。

「二世二元」という今上陛下

の大御代と私達国民が共にあ

る「二元」の意味や、一国家と

してその建国を顧みる視点に

立つ「皇紀」を軽んじる流れの

中であって、心ある国民は我が

国の歴史・伝統を後世に伝え

て、その継承に努めなければ

ならない。



中津宮の豆打式

# 中津宮節分祭

筑前大島の中津宮で

も二月三日に節分祭が

行われ、還暦を迎えた年

男・年女等が袴・千早姿

に身を包み、福豆や紅白

餅などを撒いた。豆撒

き後にはぜんざいも振

る舞われ、福運を授かる

うと参集した多くの島

民を喜ばせていた。



袴、千早姿の奉仕者



浦安舞奉奏

第三十九回

文化財防火訓練

続いて、折からの強風の影響で祈願殿に延焼拡大したとの想定

文化財防火デーの二月二十六日、第三十九回目となる恒例の防火訓練が宗像大社自衛消防団・宗像地区消防本部・宗像市消防団(第一・九・十一・十四分団)宗像市女性消防団から約百名が参加し行われた。

時折、小雪の舞う午前九時五十分、本殿裏南西の森から出火し、重要文化財の本殿・拝殿に火勢が迫っている想定で開始された。火災を発見した巫女が直ちに拝殿の火災報知機を押し、社務所へ連絡、一一九番通報。職員は本殿に駆けつけ、巫女と宗像市女性消防団はバケツリレーを開始、神職は地元消防団とともに境内の消火栓からホースを伸ばして放水し、初期消火にあたった。

で午前十時、宗像地区消防本部・宗像市消防団の各消防車両がサイレンを鳴らして第一駐車場に集結。各隊、統制された動きで配置につき、一斉に祈願殿に向け、放水を開始、本番さながらの消火活動が繰り広げられた。消火活動が終了し、訓練参加者は第一駐車場に集合し、谷井宗像市長、宗像地区消防本部門脇消防長が講評され、高向宮司が防火訓練の御礼挨拶を行い訓練が終了した。



祈願殿での一斉放水



消防団はバケツリレーを開始、神職は地元消防団とともに境内の消火栓からホースを伸ばして放水し、初期消火にあたった。

消火活動が終了し、訓練参加者は第一駐車場に集合し、谷井宗像市長、宗像地区消防本部門脇消防長が講評され、高向宮司が防火訓練の御礼挨拶を行い訓練が終了した。

この文化財防火デーは、昭和二十四年(一九四九)一月二十六日、世界最古の木造建築である法隆寺金堂の壁画が焼損したことを契機に、文化財保護のため、さらには一年の内で一二月は最も火災



が発生しやすい時期であるということ。昭和三十年に定められた。以来、毎年この時期には文化財所有者・各関係機関が協力し、文化財防火運動を行っている。

当大社では昭和四十六年に斎行された「昭和の大造営」を機に毎年実施するようになり、今年で三十九回目を迎えた。当大社が収蔵する貴重な文化財を守り伝えるためにも、今後も消防設備の充実、職員防火意識の向上を今まで以上に図らねばと思う。



本殿、神職と地元消防団による放水



宮司 御礼挨拶



巫女と女性消防団によるバケツリレー

平成25年

# 宗像大社海洋神事奉賛会 初会合

一月二十八日、宗像大社海洋神事奉賛会の初会合が権田仁八郎会長、沖・中両宮奉賛会 沖西敏明会長をはじめ各漁協代表の方々九名出席のもと斎館にて開催された。

午前十一時より本殿にて大漁祈願祭を斎行、終了後会議に入り「若布献上」「秋季大祭みあれ祭」について審議された。

宮中への若布献上は、例年宮司と随行神職一名、各漁協より推薦された二名の計四名で参内しており、本年の献上者は福岡・津屋崎支所より各

一名ずつ選定頂くことが決定した。

関係者より現時点での若布の生育状況が報告され、順調であることから献上日を昨年同様、三月二十日前後で調整することが決定した。

次に「みあれ祭」について審議され、昨年は陸上神幸及び新フェリーターミナルの完成に伴い神湊着岸時の体制など変更があるも、大きな問題も起こらず、本年も同じ内容で継続していくことが決定し初会合は終了した。



大漁祈願祭



第4回

# 宗像大社氏子青年会 研修旅行

二月十一・十二日の両日、氏子青年会研修旅行が小林会長をはじめ会員七名、引率神職二名の計十名参加のもと開催され、山口方面へと向かった。

十一日は建国祭を終えた午後一時に出発、先ずは下関市に鎮座する長門一宮「住吉神社」へ向かい、正式参拝。国宝である五つの社が連結された荘厳な本殿を拝し、同神社の

神職によりご由緒や境内をご案内いただいた。

その後は、赤間神宮を参拝し、下関マリンホテルへ宿泊。温泉で疲れを癒し、夕食の懇親会では下関の海の幸を堪能し親睦を深めた。

翌十二日は、大内義隆(戦国時代)に周防を拠点とした有力武将(が)自害した大寧寺を訪れ、側近であった黒川隆像(第七十九代 宗像大宮司



住吉神社

宗像(氏男)の御墓参りをし、当大社との由縁や歴史を学んだ。一行は大寧寺を後にし、西の京・山口のシンボルとして全国で一番美しいと評される、国宝の瑠璃光寺五重塔などを見学し、帰途についた。

他地域の歴史や文化にふれることで、青年会活動の大切さを再認識できた有意義な研修旅行となった。



第六十二回神宮式年遷宮を奉祝する事業として本社本庁が特別協力し、四月九日より東京国立博物館で「国宝 大神社展」が開催されます。当社からは沖ノ島出土の金製指輪をはじめ金銅製高機や龍頭といった、かつて同時に出陳されたことのない神宝十三件の貸出を予定しております。

この特別展では日本の文化、伝統、信仰、そして自然観についての理解を深めて戴くことを目的に、全国各地の神社の協力のもと、大切に守り伝えられてきた国宝や重要文化財に指定された神宝約一六〇件を含む約二〇〇件が展示されます。

# 金製指輪など神宝十三件を出陳

## 四月九日より東京国立博物館で『国宝 大神社展』開催

を目的に、全国各地の神社の協力のもと、大切に守り伝えられてきた国宝や重要文化財に指定された神宝約一六〇件を含む約二〇〇件が展示されます。

質・量ともこれほどの規模の神宝が一同に集められた展示は過去に例がなく、当社としても十三件の神宝を一度に出陳するのは初めてのことで、まさに大神社展の名にふさわしい今後二度とない展覧

是非、この機会に足をお運び戴き、日本の伝統、信仰の基礎である神道の奥深さを感じて頂ければと存じます。

また同展は来年平成二十六年一月十五日からは九州国立博物館でも行われます。

金銅製龍頭(国宝)



期間

東京国立博物館  
 平成二十五年四月九日～六月二日  
 九州国立博物館  
 平成二十六年一月十五日～三月九日

金銅製高機(国宝)



金製指輪(国宝)

※金製指輪・金銅製龍頭は其々、二週間限定の展示です。

## 春まつりの御案内

春季大祭を下記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。



- ◆3月31日(日) 午後5時 総社地主祭  
午後6時 宵宮祭
- ◆4月1日(月) 午前11時 一日祭  
(氏子奉幣・主基地方風俗舞・浦安舞)
- ◆4月2日(火) 午前11時 二日祭(海洋神事事業功労者表彰)  
午前11時40分 宗像護国神社春季大祭  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
交通安全講社祭  
午後2時 献茶祭(南坊流・花田社中)

(続)

# 浜の寄物

275

いしいただし



前回で軍艦香椎について記したが、香椎宮には軍艦の砲がある。香椎宮の拝殿右手に、砲身が置いてある。口径一二cmほど。横に立札があり、軍艦

艦(英艦ドレッドノート型戦艦)二隻と他の建造計画が議会で認められたもの二隻の弩級戦艦は「摂津」と「河内」である。

二〇・五kt。備砲三〇cm砲一二門、一五cm砲、一〇門、一二cm砲八門、八cm砲一六門、機関砲二門、五三cm魚雷発射管五門、乗員九九九名であった。まさに堂々とした重装備をした弩級戦艦、一等戦艦であった。

の弩級戦艦であった。野沢正氏の「日本軍艦百選」からこの艦の姿を追ってみよう。明治四十二年(一九〇九)に弩級戦

摂津は明治四十二年一月呉で起工した。新造時では、常備排水量二、四二〇t、水線長二五二、四〇m、幅二五六一m、二五、〇〇〇馬力、速力

艦の中央部に三本の煙突が並び、前後に二本の三脚マストをもっていた。しかし欠陥も



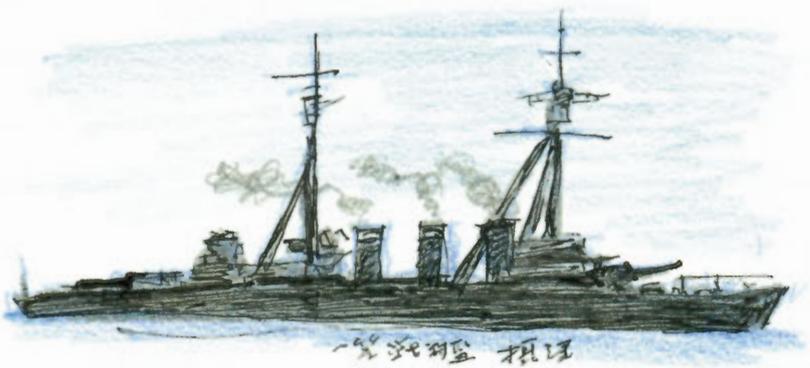
多く、主砲の配置上、全砲火を片舷に集中使用が不可能であったり、砲の位置もバランスがとれてなく、しかも計画および工事の手違いから、重量が増加して計画通りの吃水を保つことが困難であった。摂津は竣工の年に艦隊に編入されている。第一次大戦では日本本土お

び近海の警備にあたっている。大正八年(一九一九)十月の横浜沖の大演習観艦式には大正天皇最後の御召艦となった。大正十年、ワシントン軍縮会議の結果、摂津は主力艦として残されるはずだったが、のちに陸奥を保有する代償として摂津は戦艦から徐かされてしまった。

大正十二年、兵装と、装甲をとり除いて標的艦に格下げされた。厚い装甲や大きな砲を取り除いた有様は「ゴルセツトをはずした貴婦人同様・不恰好な姿であった」(日本軍艦物語 木俣滋郎)という。

摂津は標的艦となり無線操縦され、砲撃や爆撃に使われるロボット戦艦となった。「ハワイ真珠湾攻撃で、急降下爆撃機は五九%という驚くべき命中率を示したが、その陰には標的艦としての摂津が果たした役割が大きい」と木俣滋郎は述べている。

昭和二十年七月二十四日、二十八日の広島、江田湾内にアメリカ機空襲を受けて多くの残存艦艇は大破沈没した。七月二十四日、早朝第一警戒



配備中ノラップノ号音、全校二轟ク、米英機動部隊ノ艦載機来襲ス。炎天下ノ江田内二乱レ飛ブ轟音、閃光、爆煙、水柱。戦艦「伊勢、日向、榛名」船体大破、擱坐。巡洋艦青葉、出雲、磐手擱坐。航空母艦天城、葛城、横転擱坐や大破、駆逐艦「梨」沈没、建造中伊号潜水艦、「摂津」浸水擱坐、帝國海軍の墓場と化した。(乾尚史・海軍兵学校ノ最期)

第六一九回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



うきは市 浮羽町

向 則正

行商の祖父に連れられし幼き日夕暮迫り灯と火の恋しき  
回想の世界の懐かしさと切なさを感じる歌。「家なき子」  
の物語の一場面などを連想した。下の句を「日暮れ迫れば  
灯と火を恋ひき」としては。

福津市

若木台

山崎 公俊

おのおの役に励みてある巫女らおのづから個性ひかりいづるも  
巫女さんたちが生き生きとはたらく姿にそれぞれの個性  
を感じた作者。少し抽象的な詠みぶりなので、下の句  
を「個性あらはる声に仕草に」などとしても良いだろう。

北九州市 八幡西区

豊田 光子

朝あさを米の研ぎ汁椎茸の原木にかけ芽吹き促す  
毎朝椎茸の原木の手入れをして、楽しみにしている作  
者。良くできた歌だが、菌類の親と同じ形の小さなも  
のが現れることは「発生」というらしい。結句は「発生  
促す」に。

福津市

中央

池浦千鶴子

バス停に冬の日差しをさしこみて椅子にかけた人と目の会う  
さりげない一場面をとらえた静かな一首。上の句と下  
の句の主語が異なり文脈にねじれがあるので、「冬の  
日のさすバス停まで歩み来て」などと作者を主語にし  
てはいかが。

宗像市

土六

山本 静子

赤き箸で一粒ひとつぶはさみいるブルーベリーの紫紺つぶら実  
結句の描写からブルーベリーがとても好きな作者が  
見えてくる。作者がブルーベリーをなぜ箸で挟んでい  
るのかはさみ食ふなどと分かると良い。初句の箸の  
赤はない方が結句の紫紺が鮮やかに印象に残るので「箸  
をもて」に。

宗像市 日の里

大和美由紀

あかつきの厨に立てばうぐひすの笹鳴きの声畑から聞こゆ  
早起きをした作者はこんなに早くからウグイスが鳴く  
と驚いたのだろう。言葉の運びのゆったりした意の通っ  
た詠みぶりが良いが、笹鳴きを強調する詠み方も試し  
てみては。

宗像市

池田

森 龍子

ひと夜さを水に浸せる黒豆の迫りくるごと容器に溢る  
日常の些事をよく捉えた作者の感性が良い。水につけた  
黒豆の膨れ方を「迫りくるごと」と実感のある比喩で表し  
ている。初句の一夜さは夜の初めの意味なので「一晚を」に。

福津市

星ヶ丘

佐々木和彦

大物の鯉の赤斑ゆくりなく動かぬ水の透明度見す  
鯉を詠んでいるが鯉ではなく水の透明度に作者は着目  
する、視点が個性的だ。初句・二句の大物の鯉で先ず真  
鯉を思い浮かべるので、緋鯉とすると赤斑が生きてくる。

宗像市

田久

巻 桔梗

細魚子に喰ひはせぬよと口ひろげ垢を除くする巨大魚われは  
巨大魚になってしまった作者が面白い。事実として若  
いサヨリが大きな魚の口の垢を食べるのかどうか知識  
がないが、サヨリと限定せず小魚とした方が想像が広  
がるのでは。作者の感情としては「みんな寄っておい  
で、仲良くしよう」というところだろう。

福津市

若木台

野間 精一

玄海の潮を柄杓で扱ふごと北斗七星あらはれにけり  
景の大きな歌。北斗七星が玄界灘の上に低く見えるのだ  
ろう。作者が見た時間が早く、まだ海面より高い位置に  
あるのだろうか。三句はやはり「扱むごとく」と言いたい。

選者詠

小雨降る町にこの日はいくたびもピザ配達のパイクと出会ふ  
この週は夜ごことに会へり笑顔よきビール商標美男のエビス

第五九二回

俳句作品集

宗像市 日の里

石松 弘次

宗像市 日の里 花田いつ枝

宗像市 田禮 早川 祥三

3月祭事暦

1・15日	月次祭
午前10時～	高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭(1日)
午前11時～	総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
4日	氏貞公墓前祭
午前11時～	於=氏貞公墓前 (宗像市上八) 本年は仏式で斎行
19日	松尾神社祭
午前11時～	於=境内松尾神社
20日	皇霊殿遷拜式
午前10時～	

編集後記

もうすぐ桃の節句です。ひな祭りは女性の赤ちゃんの成長を願う行事で、お雛様は災難を代わりに引き受けてくれる守り神のようなものです。省略せずにきちんとお祝いしましょう▼当大社のホームページでブログが新設され、主に私が更新を担当することになりました。皆様の関心を寄せる様な旬な話題を提供出来ればと考えております▼次は桃の花でも探して、記載してみようかな… (鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八二一―三五〇五

福岡県宗像市田島三三三

電話 (〇九四〇)六一三二二(代)

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円